



国土交通省

令和5年10月20日
最上川ダム統合管理事務所

記者発表資料

ダムからの水補給により今年の酷暑を乗り切る

～755万m³(山形県庁58杯分)の水を白川ダムから補給～

令和5年の最上川流域は7月下旬から少雨傾向となり、記録的な高温と相まって、農作物への影響が懸念されました。

特に白川ダムでは、少雨により貯水位が低下傾向にある中で、関係する利水者との連絡調整・協力体制により、ダムからの補給量を調整し、渇水の影響を最小限にとどめ、この夏の酷暑を乗り切ることが出来ました。

仮にダムが無ければ、8月上旬から必要な水が確保できず、深刻な渇水被害の発生が想定されました。

- 最上川流域では、7月下旬から少雨傾向となり、特に、最上川上流に位置する白川ダムではダム管理移行後最大の渇水となった平成30年以来の渇水となりました。
- 白川ダムでは、7月～8月の降水量が平年の48%と極端に少ない状況に加え、7月下旬から8月中旬にかけての約3週間は雨がほとんど降らない状態で、かんがい用水等への補給水の不足や河川環境の悪化が懸念されました。
- この状況は9月上旬のかんがい期が終わるまで続きましたが、各関係機関が一丸となって協力し、連絡・調整を行うことで限られたダムの水を効率良く補給し、無事に渇水を乗り切ることが出来ました。
- 農業関係者からは、「今年は高温にも関わらず水が確保できて良かった」などの声が寄せられました。

《発表記者會》山形県政記者クラブ、米沢記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 最上川ダム統合管理事務所
山形県西村山郡西川町大字砂子関 158
TEL 0237-75-2311



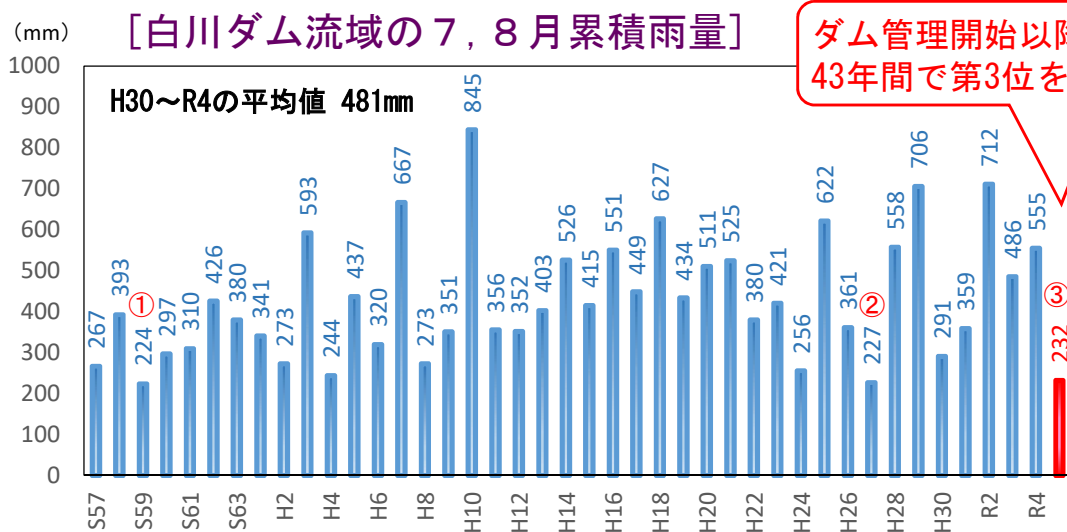
国土交通省

技術副所長
管理課長

おおかわら まきよし
大河原 正吉
あさの たかお
浅野 隆郎

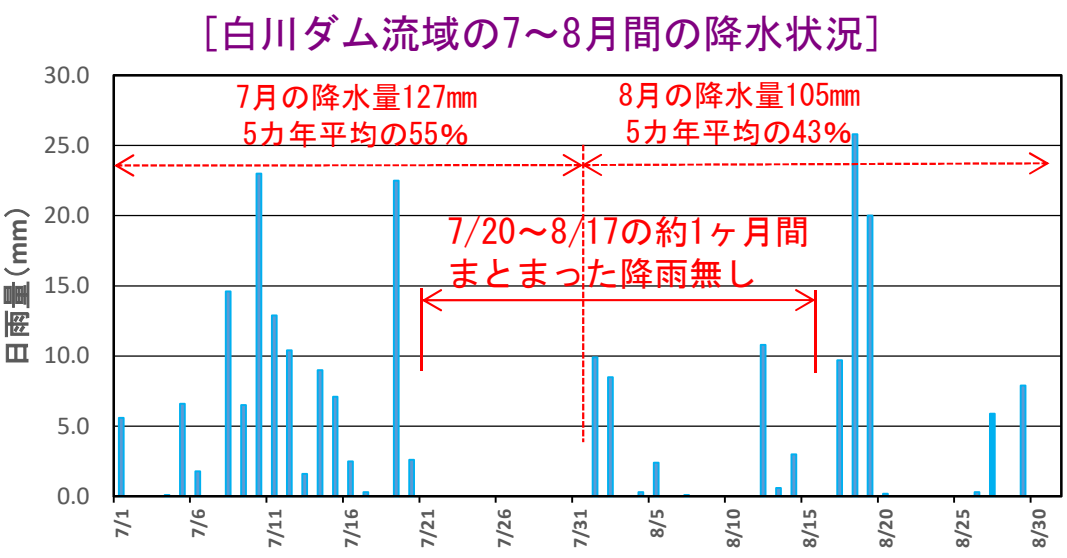
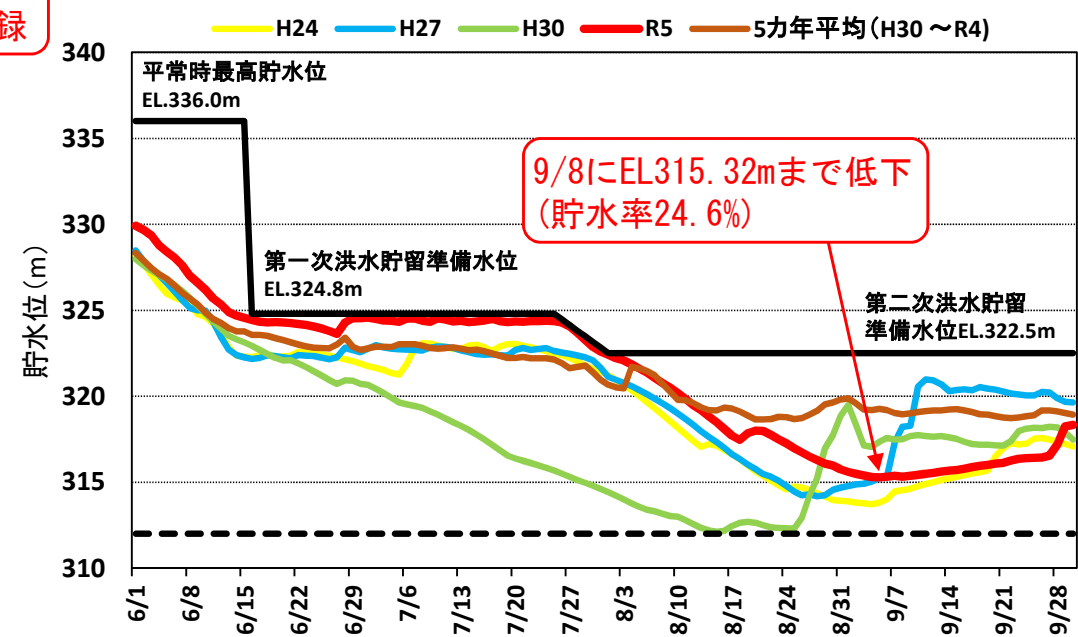
令和5年渇水における渇水対応 ～白川ダム～

- 令和5年の7～8月の白川ダム流域の累積降水量(232mm)は、5カ年平均(481mm)に対して約48%と、**管理開始(S56)以降で3番目の少雨を記録**。
- 7月20日～8月17日の約1ヶ月間まとまった降雨が無く、白川ダムへの流入量の低下(8/29に1.80m³/s)に伴い貯水位の低下が進行し、9月8日には貯水位がEL315.32m(貯水率24.6%)まで低下。(平成30年8月にはEL312.08m(貯水率0.5%)を記録)
- このため、白川ダムでは白川土地改良区と山形県企業局(発電事業者)とで連絡調整を実施し、放流量を調整した。



ダム管理開始以降の43年間で第3位を記録

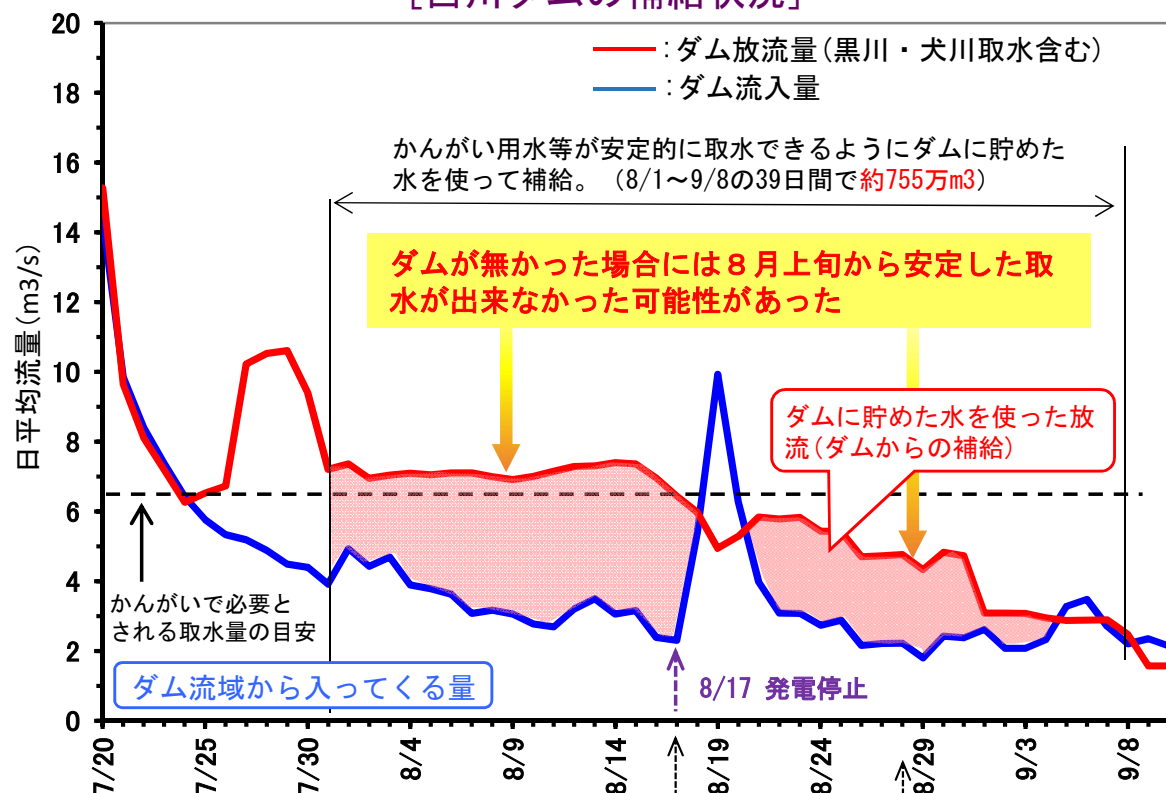
[貯水位運用状況(過去の渇水年及び平年値との比較)]



令和5年渇水における渇水対応 ～白川ダム～

- 土地改良区では、かんがい期終了日(9/8)までの継続的な取水を確保するため、**節水や番水制等により取水量を調整**。
- 白川ダムでは、かんがいの取水量に合わせた**放流量調整を関係利水者と行い、枯渇しないよう運用**。
- 山形県企業局では、**放流調整に伴い発電最小流量を下回ったことから発電を停止(8/17)**し、ダム設備からの放流に切替。
かんがい期終了日以降も、流入量が回復しなかったため発電停止を継続していたが、**降雨により流入量が回復したことから、9月29日から発電所の運転を再開した**。
- 以上の取り組み結果により、今回の渇水において西置賜地域1市2町(長井市、飯豊町、川西町)の**約3,800haの水稲へのかんがい用水を確保し、水稲の育成不良を回避**。(8月1日～9月8日までの39日間で約755万m³(山形県庁58杯分に相当)の水を補給)
- 飯豊町上水道における**給水人口約7,200人の水道用水を確保し、安定的な水道水供給に寄与**。

[白川ダムの補給状況]



8/17 白川ダム利水者調整(電話)

8/28 白川ダム利水者打合せ(第1回)



農業関係者の声

- ・平成30年は水の確保に苦労したが、今年は高温にも関わらず水が確保できて良かった。
- ・やはり平成30年と比較してしまうが、30年は稲に害が出たところもあったが、今年はその様なこともなく、関係機関が連携してくれた結果だと思う。

関係者との調整会議等の開催状況